

会 報

# 鳥 取

第 26 号

2012年 1月



夢みなとタワー（境港市）

目 次

夢みなとタワー(境港市).....表紙	合同面接会・SSP事業実施状況.....12
新年の挨拶(連合会会長).....2	趣味のひととき(倉吉市).....13
新年の挨拶(鳥取労働局長).....3	会員のひろば(南部広域).....14
理事長の抱負.....4~8	SP講習に参加して.....15
平成23年度事業実施状況.....9	鳥取県の最低賃金.....16
平成23年度SP事業実施状況.....10	連合会あいさつ・あとかぎ.....17
平成23年度SP受講者データ.....11	会員名簿.....裏表紙

社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

# 新年のごあいさつ



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

会長 宇野 治 巳

あけましておめでとうございます。

会員の皆さまを始め関係機関の皆さまにおかれましては、お健やかに新年を迎えられたことと存じます。日頃から、シルバー事業に対し多大なご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

ご承知ではございますが、我が国は急速に人口の高齢化が進み、昨年度は65歳以上の人口は二、九八〇万となり、総人口に占める割合も二三、三%となつて参りました。また、25年度には高齢者が4人に1人という超高齢社会になるといわれています。

先般、県で実施されました山間集落実態調査により、対象地域の平均高齢化率は、四〇、八%と高い割合になっており、地域の日常生活に支障が出るおそれもあると報道され、深

刻な社会問題となっております。

シルバー人材センター事業は、本来、老人福祉法の理念に立つて、雇用労働生活や自営業生活などを終えた高齢者の内、再就職までは好まない任意的就業の希望者を対象に、これまでの就業経験の如何を問わず、個々の能力差や体力差を超えて、シルバー事業の会員となり法人の構成員として、その役割を担っています。

会員は、それぞれ支え合いと助け合いのもとで永年培ってきた知識と経験や技能を活かし、高齢者にふさわしい就業や活動を通じ、地域社会の期待に応え、安心社会づくりに努めています。

申すまでもありませんが、シルバー事業における働き方は、生計の維



持を目的とした本格的な就業ではなく、定年退職者の特性と就業の希望内容から、日常生活に密着した軽作業などを主たる仕事としており、一般の産業社会で見られる労働とは、その就業の意義と目的において大きな違いがあります。

このため、シルバー事業の基本業務である請負等就業事業は、既存の労働法の適用を受けない「人間労働」であり、「生きがい就業」と位置づけ、独特の就業方式によって規制された業種と職域のもとで、適切な就業機会を開拓・創出し、実施しているところであります。

今後、さらに予想される「少子超高齢人口減少社会」を迎える中で、シルバー人材センター連合は、県民生活の身近な領域において、高齢者目線によるサービス業務の充実に努め、高齢者に就業機会を増やすための事業を積極的に開拓しています。

これらの事業を通じ、現代にあつた人や地域の絆など、新しい社会の仕組み作りに協力したいものと考えています。

今後とも、関係者をはじめ皆さまのご健康とさらなるご活躍を祈念し、新年のご挨拶といたします。

# 新年のご挨拶



鳥取労働局長

森田 啓 司

鳥取県では、年の初めの記録的な大雪に始まり、台風による洪水被害等の自然災害、また、経済状況についても三洋電機C E等の事業再編問題など、県内の産業・雇用への影響も大きく、激動の一年でありました。

本年におきましても、経済のグローバル化の影響等により、厳しい経済情勢が続くことが懸念されるところであり、きめ細かな雇用確保対策を実施していく所存です。

こうした中、我が国は世界に類を見ない高齢化が進展しつつあり、人口は平成16年に一億二、七七九万人で既にピークを迎え、減少局面に入っております。総務省の発表では、日本全体で平成25年には人口の4人に1人が65歳以上の高齢者になると推定されています。

このように高齢化が進む中で、社会の活力を維持するため、さらに日本の社会や経済が安定して発展し、成長するためには、意欲と能力のある高齢者が可能な限り社会の支え手として活

新年明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、平成24年の新春をお健やかに迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年の経済情勢を振り返りますと、リーマンショックからの回復が足踏み状態であったところに、東日本大地震が発生し、さらに円高の進展やタイの洪水も加わり、景気の回復に大きなダメージを与えました。

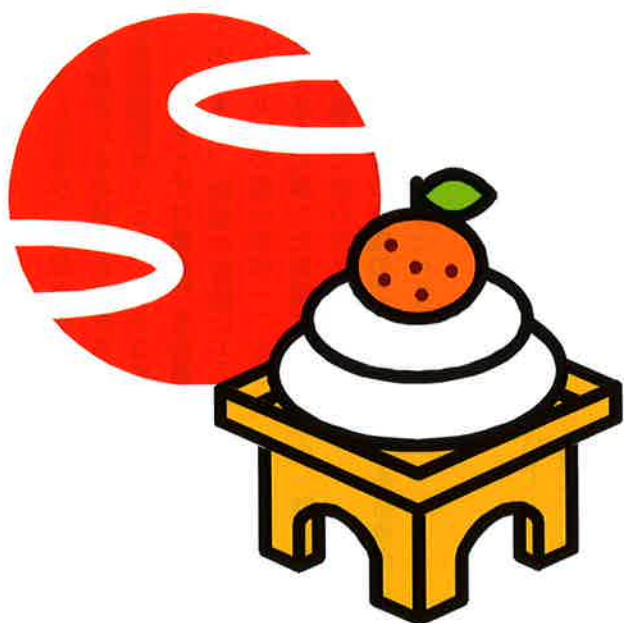


躍できるよう、年齢に関係なく働ける「生涯現役社会」を実現する必要があります。

シルバー人材センターにおかれましては、高齢者の多様な就業ニーズに応じ、地域社会の日常生活に密着した就業機会を確保、提供し、併せて高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進による地域社会の活性化を図るという重要な役割を果たしてきておられます。

今後、さらに高齢化が進むことにより、シルバー人材センターの役割はますます重要性を増していくものと考えます。

シルバー人材センターの皆さま、会員の皆さまの益々のご健康とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



# シルバー人材センター

## 理事長の抱負



(社)鳥取市シルバー  
人材センター  
理事長 木島 敏行

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の社会情勢は、国内外ともに波乱に満ち、経済情勢も不透明な状況でした。特に東関東大震災は、巨大地震・巨津波・原発事故と世界中を不安に陥れ、被災者の方の思いは、計り知れないものとなりました。また、台風12号による豪雨は、三重県・和歌山県・奈良県を中心に大災害をもたらし、住民は不安な日々を送っています。

一方、当センターにおいては、6月9日開催の鳥取県公益認定等審議会において、公益社団法人移行認定基準に適合するとの審査結果が出され、努力が報われた記念すべき年となりました。しかし、超高齢社会の波は押し寄せており、シルバー人材センターへの期待が高まる社会において、センターの直面する課題は山積しており、就業機会の確保・事務改善の更なる努力と自主財源の確保は必要不可欠となっています。そういった厳しい中ではありますが、今年も行政に支えられながら、会員の皆様とともに



(社)米子広域シルバー  
人材センター  
副理事長 後藤 巖

新年あけましておめでとうございます。シルバー連合会会員・役員、事業関係者の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。地域の皆様のご支持のもと、米子市・日吉津村など関係機関のご支援と皆様のご協力により、不断の事業運営が図られていますことを厚くお礼申しあげます。

昨年春、平成21年、22年11月の「事業仕分け」により国庫補助金が全体で約三割削減され、23年度当センターは国と地元自治体の補助金合計で15%削減となり、基盤の一つ事務局体制の更なる合理化を進めざるを得なくなりました。新公益法人への移行の課題もあるなか、限られた公共・民間事業の需要でシルバー事業の運営は極めて厳しい状況が続いております。

そしてシルバー事業は、その「自主・自立・共働・共助」の基本理念と主体的な「会員」の就業、社会参加による「生きがい就業」として現在に至っておりますが、最近では生計の維持を目的とする入会者や専門性や経済性を求める受注も目立つなど、シ

力を結集して頑張っていく所存です。

会員の皆様が地域社会に果たす役割を十分に務められ、関係諸団体の皆様共々、健康な1年を送られますよう、ご祈念申し上げて年頭のご挨拶とさせていただきます。

ルバー事業に寄せられる期待はより深刻さを増しています。

こうしたなか、昨年春から地域の弱い状況の高齢者や障がいをお持ちの方たちが必要とされる一寸した生活援助サービス、ワンコイン・サービス『ちよつこし おたすけ事業』も会員有志のご協力で始めております。地域の皆様にとって魅力のある、「新しい公共」の担い手の一つとして、シルバー事業が明るく活力に満ちた地域社会づくりの一助となるよう取り組んでまいりたいと思えます。

事業関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。



(社)琴浦町シルバー  
人材センター  
理事長 田中 明

新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい平成24年の新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

はじめに、前足立理事長様は、合併後のセンター組織の確立等に多くの実績を残され、その間のご苦勞に感謝申し上げます。その後任として選任され、責任の重さを痛感しております。

地域社会は、少子高齢化が進み、台風等の自然災害も加わり、活力が削がれ厳しい状況ですが、「自主・自立・共働・共助」を理念として、安全第一を基本としながら、会員の増加・就業機会の確保・健全な財政運営を目指します。屋内屋外を問わず、どんな些細な仕事の依頼にも豊富な経験を有する会員が誠実にお答えして、町民の方・企業の方・公共の方から喜ばれ、地域社会において、無くてはならな

い大切な組織の確立を目指し努力し、事業展開を図って参ります。今後も、高齢者の生きがい充実と福祉の増進を図るとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを心がけます。

終わりに、関係各位のさらなるご支援、ご協力を賜りますようお願いし、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



理事長 西村 岩市

(社)境港市シルバー  
人材センター

新年あけましておめでとうございます。  
皆様には、輝かしい新春をお迎えのこと、お慶び申し上げます。

センターの適正な運営を行うため、会員並びに役員が新たな意識を改革し、知識や経験を活かして就業することで自身が充実感を得るとともに、希薄になりがちな地域との結びつきを補完し、活力ある地域社会を創っていく役割を、より強く考えるべき大切な年ではないでしょうか。

シルバー事業の「自主・自立・共働・共助」の基本理念の基に会員の就業により、高齢期の人生を地域社会に関わる主体的な就業によって、やりがいを実感する「生きがい就業」を忘れ、就業による経済的メリットだけを求め、自主的・自立的な就業活動や組織活動に積極的に参加する状況が見られるのは、社会構造や環境の変化・地方経済の低迷化が直接の影響ではないでしょうか。このような状況の中では、地域内はもちろん、近隣地域の他団体の交流を深め、活動を参考にし、地域高齢者はもとより多くの年齢層との交流を基に、センターへの地域の理解を深め、

地域社会の多様な仕事の需要を再把握し、就業機会の拡大・充実を図るべき重要な年と思います。

高齢者とはいえ、仕事を充実するための能力再開発・技術の研鑽はより重要です。地域からの仕事発注に対しての完全な対応こそが、私たちの使命です。

新しい年明けとともに、地域関係機関にシルバー人材センターの置かれている現況・立場を再認識いただき、実りある一年となることを念願し、会員各位のご理解・ご協力のもと、鋭意努力することを誓い、新春のご挨拶といたします。



理事長 近藤 昭夫

(社)大山町シルバー  
人材センター

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。  
各シルバー人材センター会員の皆さま、そして関係各位の皆さまにおかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、自然災害の恐ろしさ、そしてヨーロッパの経済不安に起因した円高による日本経済の減速等、わが国の将来はどうなるのか不安の毎日であります。

一方、新公益法人を本年4月より目指して、事務局も大変な昨年でした。

しかし、新しい組織に認可されたとしても、その厳しさは現状の経済環境において、シルバー人材センターの運営及び収支は、今まで以上に厳しいことが確実視され、更に費用節減・合理化を進めなければなりません。

大山町シルバー人材センターが合併して8年目、少子高齢化が加速的に進む中、「福祉の受け手から社会の担い手」となることを理念として、われわれ

高齢者が健康を保持し、社会参加や働くことを通じて仲間作りや生きがいの充実を図り、地域の活性化を目的としたシルバー事業の果たす役割はますます重要になっており、本年もその目的に沿って事業を進めたいと考えております。

最後になりましたが、事故防止のため絶えず注意を喚起し、特に重篤事故防止のため、全力を注ぎたいと思っております。



理事長 安達 幸男

(社)南部広域シルバー  
人材センター

新年明けましておめでとうございます。  
昨年中のご厚情を厚くお礼申し上げます。  
本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は千年に一度ともいわれる東日本大震災で、自然災害の恐ろしさを痛感した一年でした。今もなお大変な思いをされている被災された皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧復興をお祈りいたします。

一方、シルバー人材センターは、前年に引き続き補助金の削減・長引く景気低迷の中で、仕事量も減少し、厳しい事業運営が強いられました。また、この様な状況下においても、少子高齢化が急速に進行する中で、シルバー人材センターの担う役割はますます重要となっております。

本年も、シルバー人材センターを取り巻く環境はますます厳しさを増すことが予想されます。  
昨年4月に、適正就業の観点から、労働者派遣事業を導入しました。受注件数・就業延人員・契約金

額が大幅に減少し、更に、有給休暇の適用と、大きく様変わりをしました。今後とも法を厳守し、更なる派遣事業を推進いたします。また、公益社団法人への移行については、公益法人制度検討委員会を設置し、引き続き県の指導のもと申請を進めます。今の厳しい状況の中、内外の変化に対応できる強いシルバー人材センターが求められており、運営の改革と効率化・安全就業・会員獲得の徹底を図り、役員・会員が心を一つにして、シルバー人材センターの担う役割を充分認識し、地域社会の活性化に貢献できるよう邁進して参ります。終わりに、皆さまのご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



(社)智頭町シルバー人材センター  
理事長 小林 實夫

平成24年の新年を迎え、皆さまとともに喜び申し上げます。

さて、昨年3月11日に発生した「東日本大震災」から早や10ヶ月がたちましたが、今だに有る多数の行方不明者の方々の一刻も早い発見を願うとともに、被災地の早期復興を祈念するものです。この大震災を契機に「日本丸」はどのような進路を辿ればいいのか、我々ひとり一人に向けられた大きな設問であります。

一方、現実的に「シルバー人材センター」の現状は、全国的な補助金の削減や行政指導による適正就業の徹底が求められ、加えて年代を問わずの就職難時代に於ける現役世代との就職（就業）摩擦等々、多様な問題を抱えています。

ともあれ、どのような状況であっても「シルバー人材センター」の果たす役割は、少子高齢化社会が進む中でより一層増しており、地域になくはならない存在であるとともに、我々シルバー世代がそれぞれの地域の将来を左右するといっても過言ではありません。今年の干支は、「辰・竜（たつ）」で諺に「雲は竜に従い寅は風に従う」があります。行政機関を始め、県下各シルバー人材センター及び会員・役員一丸となり新しい年を全力で事業活動に邁進したいと思えます。「がんばろう日本」「がんばろうシルバー世代」の願いを込めて。



(社)湯梨浜町シルバー人材センター  
理事長 足立 春人

平成24年の新春を皆さまとともに迎えましたことを喜び、本年が良い年になりますよう祈願いたします。

昨年は、地震・津波・放射能汚染など暗いニュースが多かったように思います。しかし、最近では被災地の方が頑張っておられる姿が報道されるようになります。私たちが励まされているように思われます。

本町では、全シ連からの要請により東日本大震災復興義援金の募金を会員138名にお願したところ、74%に当たる102名の方からご賛同をいただき、早速送金しましたが、1日も早い復興を願うばかりです。

昨年は「絆」という言葉がよく使われていたが、4月に湯梨浜町・北栄町・琴浦町シルバー人材センターの3町が主催者となり、会員同士の「絆」

を深めるため、第1回3町会員交流グラウンド・ゴルフ大会を潮風の丘とまりにおいて開催しました。初めての事業であったためか参加者は79名でしたが、専用コースでプレーを楽しみながら交流を深め、今後も継続することを約束して閉会となりました。本町では、町民の利益の増進に寄与することを目的としている公益社団法人への移行を目指しておりますが、平成24年度中に申請手続きを行い、平成25年度に認定を受ける予定にしております。今後もシルバー事業を通して町民の皆さまとの「絆」を深めたいと考えております。

江府町シルバー人材センター

副理事長 佐々木 節子

新年明けまして、おめでとうございます。

シルバー連合会・会員・事業関係者の皆さまにおかれましては、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年1月の豪雪に続き、3月11日は東日本大震災と、思いもよらぬ大惨事が起こり、今もって災害・事故の捜索に後片付けと続いている現状で、明るさの見えない経済情勢ではありますが、私たち会員も不況の厳しい波に飲み込まれないよう頑張っているところですよ。

魅力有る人材センターにするためにきわめて厳しい状況ではありますが、「小さいことからコツコツ」をモットーに地元の皆さんの温かい支援を励みに、一歩一歩と前進する力を蓄えていくのが、私たちに課せられた課題の一つとも思っています。

地域の皆さまに重宝がられ、シルバーとして確実に定着はしています。暗いことばかりではありません

ん。少人数センターではありますが、会員相互の交流と親睦を図るために、年中行事であります視察研修にも多くの会員に参加をいただき、楽しい一日を過ごすことが出来ました。まずもって、健康であればこそ仕事に意欲も増すもの。みんなで身体に充分気をつけていきたいと思えます。

シルバーを取り巻く環境が、明るい方向へ進展するとともに、関係者の皆さまのご健康とご多幸をご祈念申し上げて、新年の挨拶とします。



(社)岩美町シルバー  
人材センター  
理事長 谷口 幹彦

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。  
シルバー連合会会員・事業関係者の皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の雇用情勢は、依然として困難な状況にありますが、当シルバーの事業実績は、前年と比較し、受注件数・請負金額・就業延人員、いずれもわずかながらの伸びを示しています。

今年、シルバー事業をより確かな組織体とするため、4月より公益社団法人への移行が決定しております。シルバーの運営はきわめて厳しい現状ではありますが、移行を機に、役員・会員が意識を改革し、新制度に対応するしつかりとした組織づくりに鋭意努力する所存です。

今年の事業活性化への達成目標として、次の諸点をあげます。

- (一) 契約金額 三、六〇〇万円
- (二) 契約件数 一、〇〇〇件

- (三) 会員数 一八〇名の確保
- (四) 会員就業率 94%
- (五) 独自事業の推進
- (六) ボランティア活動の推進
- (七) 安全就業の推進

岩美町は、「人が輝き 海輝る きらめきつづけるまち」を基本理念としています。当シルバーは、町民一人ひとりが生き生きとした生活のできるまちづくりの実現に向けての一助となるよう、一層の活性化を目指します。

センター事業が、住民・会員の皆さまにとって、魅力のあるもの、明るく活力のあるものとなるため、ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆さまのご健勝とご活躍と、東日本大震災の一日も早い復興を祈念し、新年のご挨拶といたします。



(社)北栄町シルバー  
人材センター  
理事長 日置 勝彦

新年あけましておめでとうございます。  
今年が皆様にとりましてすばらしい年になりますようご祈念申し上げます。

昨年は、年明けの豪雪に始まり、東日本大震災や豪雨災害等自然災害が多発し、甚大な被害が発生しました。被災された皆様の生活の安定や、被災地が一刻も早く復興することを心から祈念するものであります。また、経済面におきましても欧州の金融不安がEUの経済や世界経済に影響を及ぼし、日本経済にも大きな打撃を与えております。災害・経済・暮らしなど日本にとって、これまでに経験したことのない大きな試練の一年でありました。

今年、これらの課題を抱えながら日本が復興のため力強くその第一歩を踏み出す年となつてほしいと念じております。

さて、このような状況の中で、地域の高齢者対策の先頭に立つて活躍してきたシルバー人材センターは、今後ますます少子高齢化社会が進む中その役割が求められています。公益法人への移行は、そのための組織固めであり、より一層公益性のある組織として生まれ変わる必要があると思えます。当シルバーも公益法人化へ向けて現在申請事務を進めておりますが、移行後はこれまで以上に地域への貢献度を高め、会員の健康と福祉の増進を目指し、シルバー事業を推進していく所存でございます。県内のシルバー会員はもちろん、全国のシルバー会員や組織と連携し、より力強いシルバー事業の発展を目指して頑張りましょう。



(二)社八頭町シルバー  
人材センター  
理事長 衣笠 春壽

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。また、県シルバー連合及び各センターの関係者各位におかれましても、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年のわが国は政治も経済も、また未曾有の大地震による大津波、原発事故で被災された東北地方の山や海、人々の悲しみ・復興復旧も遅々として進まず、内外のあらゆる環境において深刻な状況がさらに深まっていくのではないかと心配しております。その中で急速な高齢化社会への傾斜、今後のシルバー事業も相当波にもまれずには立ち行かないであ

ろう新年を迎えたところであります。しかしながら以前からの町行政の前向きな支援や会員が今までに努力し培ってきた地域とのなじみ・連携の強さが一朝一夕に消えてしまうものでもなかるうかと思ひ、また信じており、明るいシルバーの現場が生き生きと続いていくであろう自信を失っているわけでもありません。シルバーに依頼されている就業内容はいずれも地域の高齢者の生活に少しずつ喜びを感じてもらえるものであり、依頼者からは毎年のように待ち望まれ、多くは高齢者でもある会員にも達成感さえ生まれるものであります。

この事業を進める中での最重要課題は何と云っても事故防止。絶対に重篤な事故は起こさない啓発の徹底と防止対策の実践であります。幸いにも法人化されて以降、社会的な信用を少しずつ高めながらも三年目、改めて正念場を迎えているところであります。地域社会から期待されつつ、会員相互の穏やかななじみが今年も一層強く結ばれて行くよう、がんばってまいりたいと思ひます。



日南町シルバー  
人材センター  
理事長 矢吹 隼之

新年あけましておめでとうございます。

両手を広げてさわやかな空気を胸いっぱい大きく吸い込んで、元旦の朝日に向かって平成24年への希望と誓いを立てたのは、仲間の皆さんも同じことと思ひます。

昨年、関東東北の大震災・東京電力の原発災害等々、その被害の爪あとには、いまだに復活の兆しは遠く、苦難のいばら道が続いております。被害者

の方、その遺族の方々に対し、心からのお見舞いを申し上げたいと思ひます。

さて、私たちシルバー人材センターも、決して樂觀できる材料はどこにも見あたりません。特に、少子化過疎の現象と平行して、著しい会員の激減、事業仕分けの影響で仕事の減少、収入の低下等で先行きにかんがりの難問が待ち受けているようです。

でも、腕を組んで嘆いてばかりではいられません。私たちは、今年の目標として次の三つの項目を掲げ、努力したいと思ひます。その一つは、会員の拡大です。座ってばかりいないで、積極的に呼びかけ、勧誘に努力すること。二つめは、仕事を探すこと。これも、家の周りから探して、知人や仲間にも声をかけて仕事を探し、斡旋を依頼すること。三つめは、会員仲間の健康管理と無事故無災害に留意することです。いくら仕事が入っても、病気であったり、ケガをしたりではマイナス面が増すばかりです。普段からの軽いスポーツとか、作業前の体操・身体慣らし等、心掛けたり、努力します。



(糸倉吉市)シルバー  
人材センター  
理事長 中林 正樹

新年明けましておめでとうございます。

皆さまには、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

さて、世界的な経済不況により、全国・県内の「有効求人倍率」は、約0.6倍と大変厳しい雇用

情勢の中にあつて、当センターの事業実績は前年同期とほぼ同額で推移しており、会員及び倉吉市を始め関係機関、市民の方々から深く感謝を申し上げます。

さて、平成22年11月15日に開催された、第三弾の行政刷新会議「再事業仕分け」において、「平成22年度概算要求額の三分の一程度の縮減を実施すべし」との評価結果となったことに伴い、当センターは今年度から新たにBランクとなり、国の運営費補助金が、前年度より百七十万円減額となりましたが、遡って平成21年度の国の運営費補助金(企画提案方式による事業費補助金を含む)と倉吉市の補助金(企画提案方式による事業費補助金を含む)の総額が二千六百八十八万円であつたものが、平成24年度の国及び倉吉市の補助金の総額は一千四百二十万円となること予想され、三年間で一千百九十八万円の減額となります。

このため、自己財源の確保を図るため、①事務局職員の減員②車両台数の削減③会員の福利厚生事業補助金の撤廃④事務費の引き上げ(平成24年度から9%、平成25年度から10%)等によりこの難局を乗り切つていかなければなりません。余りにも大幅な補助金の削減額の状況下で、どうしても行政の支援は絶対的な必要条件となります。

また、加えて、事務局職員減員の中で、来年度に向けて、「社団法人」から「公益社団法人」に移行する手続とともに、新たな各種の規約・規程の制定等多くの課題もあり、平成24年度は当センターにとって大変重要な年となります。

今まで幾多の困難な課題を乗り越えてこられた諸先輩に敬意を表するとともに、本年も皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



## 平成二十三年 事業実施状況

### ○シルバー人材センター事業

#### 普及啓発促進月間

シルバー事業の社会的意義、活動内容等を広く地域住民・行政機関等に理解していただくとともに、高齢者のセンターへの加入の働きかけ及び就業拡大に向け、年間を通じたきめ細かな普及啓発活動に加え、10月を「シルバー人材センター事業普及啓発月間」と定め、効果的な普及啓発活動を展開しております。

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会では、「シルバーの日」(10月15日)に啓発用ポスターの配布・米子市街でのリーフレット等啓発用品の配布を行い、各センターにおいてもイベント事業への参加、リーフレット・チラシ等の配布、公共施設等での清掃・除草等の奉仕活動を行うなど、多様なPR活動を実施しました。

### ○経理事務担当者会議の開催

補助金の適正な執行を図るため、鳥取労働局担当者を集めて、3地区で開催しました。

東部地区	9月15日	8名出席
中部地区	9月13日	7名出席
西部地区	9月16日	7名出席

## 平成二十三年 鳥取県経験交流大会

### 鳥取県経験交流大会

平成23年11月15日(火) 倉吉市で開催しました。

大会には、県内シルバー人材センターの役員・会員等88名の参加のもと、宇野連合会会長の挨拶の後、倉吉市の石田市長・鳥取労働局の佐藤職業安定部長よりご祝辞をいただきました。

基調講演は、藤井鳥取県副知事から「熟年社会における地域の担い手(その役割と期待)」と題しての講演がありました。

次に、(社)岩美町シルバー人材センター理事長谷口幹彦氏、(社)境港市シルバー人材センター事務局長阿部裕氏、(社)米子広域シルバー人材センター安全適正就業推進員井元敏明氏から事例発表をしていただきました。

また、(社)大山町シルバー人材センター事務局長青木秀之氏、(社)琴浦町シルバー人材センター事務局局長小畑紀雄氏より意見発表をしていただきました。

有意義な経験交流大会であったことを付記しておきます。



# 平成23年度シニアワークプログラム地域事業 実施状況

シニアワークプログラム地域事業は、(社)鳥取県シルバー人材センター連合会が活動拠点の協力のもと、多種多様な技能講習を事業主団体と連携をはかりながら実施する事業です。

講習の種類は、重点講習と通常講習（いずれも40時間を超える講習）の2種類となります。

平成23年度は、重点講習9回（介護講習3回を含む）、通常講習6回を計画し、順次実施していましたが、さらに1回追加し、通常講習を7回実施しました。

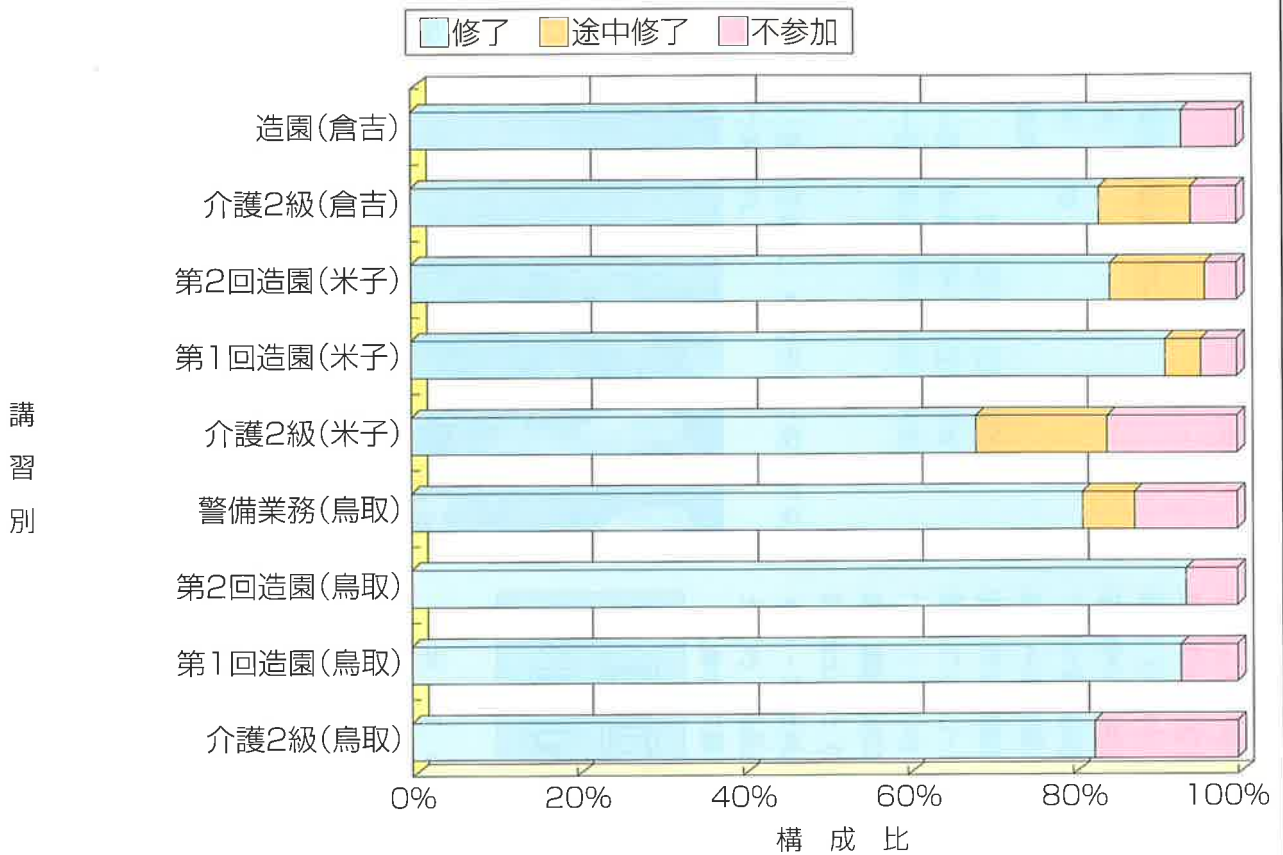
## 1. 重点講習

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	定員	受講者	修了者
<b>技能講習</b>						
造園アシスタント1	鳥取会場	6月13日～6月23日	9日間	25名	29名	27名
造園アシスタント1	米子会場	6月27日～7月7日	9日間	25名	23名	21名
警備業務アシスタント	鳥取会場	10月7日～10月19日	8日間	20名	16名	13名
造園アシスタント2	米子会場	10月11日～10月21日	9日間	25名	27名	22名
造園アシスタント	倉吉会場	10月24日～11月4日	9日間	20名	15名	14名
造園アシスタント2	鳥取会場	11月7日～11月17日	9日間	25名	32名	30名
小計				140名	142名	127名
<b>介護講習（2級課程）</b>						
訪問介護員養成研修	米子会場	6月6日～7月14日	24日間	20名	19名	13名
訪問介護員養成研修	鳥取会場	8月24日～10月6日	24日間	20名	23名	19名
訪問介護員養成研修	倉吉会場	10月5日～11月16日	24日間	20名	18名	15名
小計				60名	60名	47名
<b>重点講習計</b>				<b>200名</b>	<b>202名</b>	<b>174名</b>

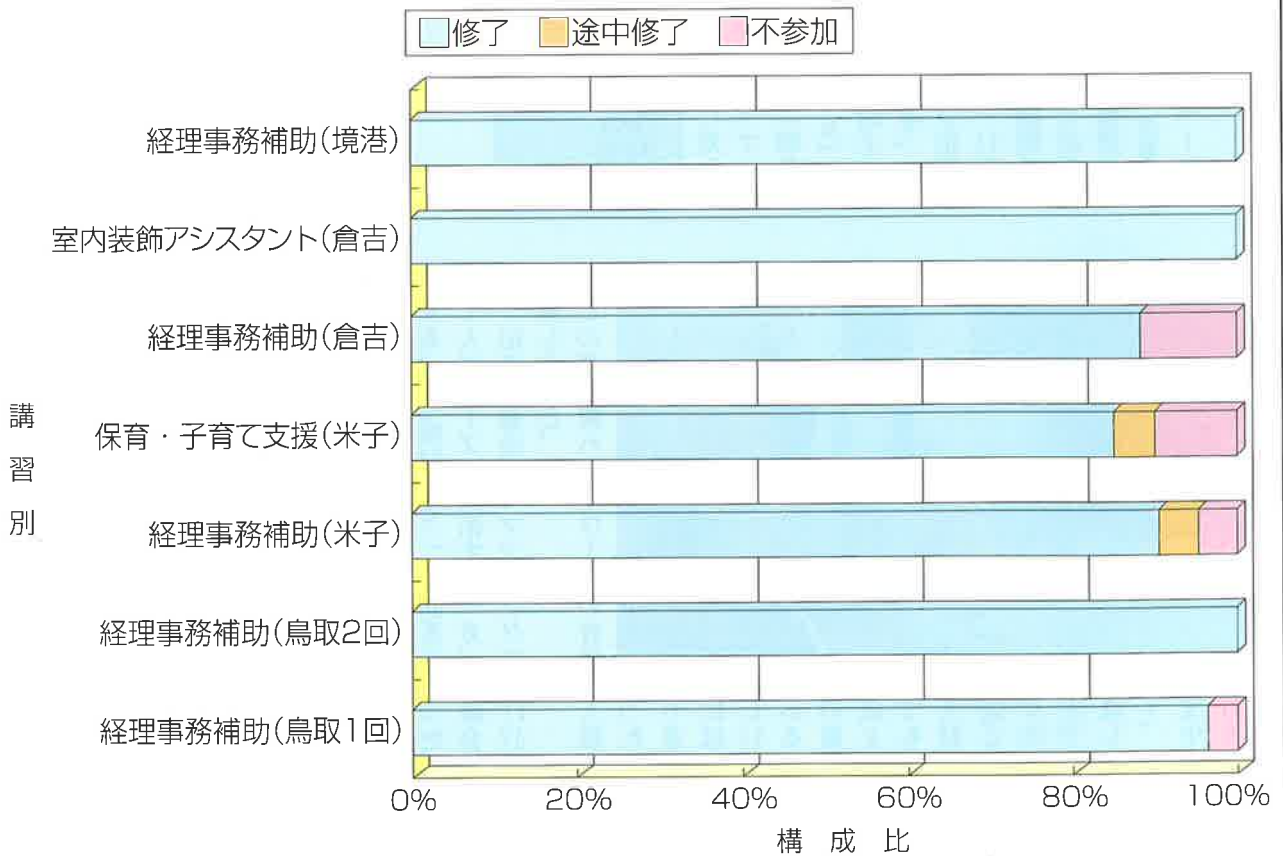
## 2. 通常講習

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	定員	受講者	修了者
経理事務補助	米子会場	5月23日～6月2日	9日間	20名	21名	19名
第1回経理事務補助	鳥取会場	6月16日～6月28日	9日間	20名	27名	26名
第2回経理事務補助	鳥取会場	12月8日～12月20日	9日間	20名	20名	20名
経理事務補助	倉吉会場	8月29日～9月7日	8日間	20名	17名	15名
経理事務補助	境港会場	9月5日～9月16日	9日間	20名	18名	18名
室内装飾アシスタント	倉吉会場	9月20日～9月30日	8日間	20名	16名	16名
保育・子育て支援	米子会場	11月21日～12月1日	8日間	20名	20名	17名
小計				140名	139名	131名
<b>合計</b>				<b>340名</b>	<b>341名</b>	<b>305名</b>

受講者データ（重点講習）



受講者データ（通常講習）



## 合同面接会の開催(地域別)

シニアワークプログラム地域事業の一環として、地域のハローワークとの連携により、各講習修了者及びハローワーク通所者及び一般の高年齢求職者を対象とした、地域別の合同面接会を実施しました。



12月1日現在、面接の結果、5名の方の採用が決定しております。

- ◎東部地区
  - ・日時 第1回 平成23年7月13日(水)
  - 第2回 平成23年11月24日(木)
  - 13時30分～15時30分
  - ・場所 白兔会館
  - ・求人 11社 79名
  - ・求職者 209名
  - ・共催 鳥取公共職業安定所
- ◎西部地区
  - ・日時 第1回 平成23年7月21日(木)
  - 第2回 平成23年12月9日(金)

- ・場所 ホテルサンルート米子
- ・求人 18社 78名
- ・求職者 183名
- ・共催 米子公共職業安定所
- ◎中部地区
  - ・日時 平成23年11月29日(火)
  - 13時30分～15時30分
  - ・場所 倉吉シティホテル
  - ・求人 5社 24名
  - ・求職者 71名
  - ・共催 倉吉公共職業安定所

## シニア就業支援プログラム実施状況

「事業目標」の登録者数は一、〇〇〇名に対し七六名(達成率七七・六%)、「ワークショップ」二九名・就業支援講座参加者(受講者)「四二四名で計五五三名(達成率50%以上)に対し、七一%」「雇用・就業等の地域社会への参加者」は20%以上に対し、一三六名(一七・五%)となっております。「広報」については、8～9月にかけて人材及び企業・団体の会員登録推進のため、県内4市役所・11町役場、4市の商工会議所と県商工連合会の各機関紙へシニア就業支援プログラム事業(SSP)の記事を掲載すると共に連合会のホームページに「就業支援講座(セミナー)」の開催案内や受講申込、企業・団体及び人材の登録が出来るようにSSPのページを追加いたしました。

「就業支援講座」は、6月に鳥取労働局より『失



業の認定における求職活動実績」として取扱う旨認定を受け、開催10回(年間計画13回)、ワークショップは14回実施で一二九名が受講しました。

このうち県東部地区では鳥取県及び鳥取市の社会福祉協議会のご協力で「介護のイロハ」をテーマに講演と福祉器具「車椅子の使い方」や「高齢者(80歳～90歳)の疑似体験」を実施。

西部地区では米子全日空ホテルにて「結婚式・宴席会場の設営」を体験していただきました。

また、雇用・就業支援のため企業・団体へのアンケート(3回、五一六件)を実施し「シニアの活用をする。」「検討する。」と回答のあつた101件を訪問して人材ニーズを開拓する一方、相談会の開催も8回、61名と面会してマッチングに繋げ17名が雇用・就業しました。

この夏以降ハローワークの有効求人倍率が少し上がったとも聞いておりますが、シニアには相変わらず厳しい状況が続いているなか、登録者の雇用就業率20%以上の目標に少しでも近づけるよう人材ニーズを掘り起こし、マッチングの拡大に取り組んで事業目標を達成したいと思っております。

(文中の数字はいずれも11月16日現在)

# 趣味のひょうき

## 一匹の鈴虫



会員 西田 輝明

(袖倉吉市シルバー)

人材センター

「芸は身を助ける」と言いますが、いろいろな資格・趣味を取得するものだ。  
郵便局を退職して、早や十年の月日が流れた。退職後は、自家には農業をする場所もなく、また、こ



れと言ったアルバイトもなく、ただのんびり過ごす毎日の生活を送っていた。

二年前の事、娘が竹で作った一匹の鈴虫を送って来たのである。その作品は僅か3センチ位の小さな黒竹で作った物で、同封の手紙には「お父さん、毎日無計画な生活をせず、何か趣味を作ったら」と、私には説教じみた内容のものであった。

早速、妻の言う事はどちらかと云えば聞かなくても、子供の事は素直に聞く私ですので、黒竹を探して作ってみると、案外納得した作品が出来上がったのである。

こうなると、何匹も鈴虫を作り、友達・知人に見せると仲々の好評ではないか？これが私の竹細工への入門であった。

竹は木材と比べても柔らかく、温かみがあり、その特徴を生かして、竹のメルヘンの世界を作って見たいと思い、次々と新作のカマキリ、トンボ、蟹などを作った。

関金町には竹細工クラブがあり、これとばかりに入会し、会員十名と共に、新しい作品に挑戦し、悪戦苦闘しながら一見地味に思われる竹細工に、週二



回(金曜日・土曜日)の日程で楽しんで参加している。

時には、小学生・中学生との交流で竹細工を作って一緒に過ごす日は楽しく、また、海外の方が体験される事もあり、恥ずかしながら僅か二年の経験で他人様に教える嬉しさを味わっているところである。

確かに竹細工は奥が深く、色々な編み方もあり、気の遠くなるような作品作りもあるが、前にも述べたように私は新しいメルヘンの竹細工作りに努力したい気持ちでいる。

「作る楽しみ」「出来上がった楽しみ」そして、その作品を「知人にプレゼントする楽しみ」の三つの楽しみに、自己満足している今日この頃である。娘に感謝して！



# 会員の広場

## 我がシルバー人生九年間の今



(社)南部広域シルバー

人材センター

大森 豊

先ずは、今年3月11日の東日本大震災で我らシルバーの仲間も大変な震災に見舞われたと聞き、大変なご苦労があると思いますが、早く復旧・復興に向けて頑張っておきたいと心から願っております。

さて、私はシルバー人材センター入会とともに「とっとり花回廊」で約9年間就業させていたいただいております。主に花の植え替え・除草作業に従事し、特に、花の丘という場所では約10万本の花の植え替えを行う中で、曲線・直線の植え付けを如何にきれいに植え付けて、お客様に見ていただくか、気を配っております。



就業は今度、花回廊班として35名での4班集体で2班ずつの交替作業ですが、花の植え替え作業時は3班集体で短期間で行い、お客様に花のない状態を出来るだけ無くするようしております。

我々花回廊班に限りませんが、全員が種々の仕事に精通し、経験豊富な人たちがばかりで、又種々の講習会にも積極的に参加し、更に自身の向上を図り、実作業で仕事の効率化や問題解消・改善等進んで取り組んでおります。

夏場の作業はきつい時もありますが、陽に当たり汗をかきながらの作業が健康な身体作りとなることから、短時間の休憩を多く取りながら頑張っているところです。

又、就業のない日は畑を無料で借り、野菜作りに挑戦し、友人・知人や近所に配っています。

もう一つの趣味は、健康で体力維持のため、ゴルフを始めて、現在はシルバー会員15名前後で二ヶ月に1回コンペを開催し、現在9回目を数え、和気あいあいの中、情報交換や仲間作りの場となっております。

現在、シルバー業務で就業の適正化についての指導により、受注・契約金額の減少に加え、補助金の削減という厳しい状況の中、私たちシルバー会員として就業の開拓



等積極的に取り組み、地域に信頼されるシルバー人材センター作りが必要と考えます。そのため、自身としてはあらゆる業務での品質向上意識を高め、その維持管理に努め、お客様へ満足のお仕事をすることと考えています。今後も、自主・自立・共働・共助を基本に、今自分として就業の場である日本一の広さを持つ「とっとり花回廊」をお客様に見せる庭園として、少しでも役立つために、安全作業に徹しながら、今後も就業に努めて参りたいと考えています。

# 講習会に参加して

## 造園アシスタント

### 講習に参加して

(米子会場)



米子市 門 永 義 広

シニアワークプログラム地域事業として、10月11日から9日間、米子市錦町の「米子広域シルバー人材センター」2階多目的ホールで「加藤松香園 加藤会長」を講師に初日と2日目は剪定作業に必要な知識として「樹木の種類と性質及び年間管理」・「病害虫の種類と駆除方法」・「樹木の整枝と基礎知識」・「用具・器具の使い方」等を受講しました。

受講生は男性19名・女性2名の計21名が、受講した。日頃、自宅の庭を自己流の剪定技術を発揮され剪定慣れしている受講生もおられ、質疑・応答も活発に行われていました。

講習3日目からの実習に向け、私も含め、全員の受講意欲に関心させられました。

受講の動機は、昨年末、40余年の会社勤務を終え、自宅の庭木に水遣り程度しか行わなかった私でしたが、定年を迎え、趣味としていた写真撮影を思う存分にやりたいとの思いが有り、自然が織り成す風景に心を惹かれていました。

自然の中にある樹木は、種を落としたところで成長して行きますが、人が、庭木として観賞対象にした時点で、暑さや寒さ、雨風に耐え、四季折々に花や実を自然に近い形で育てることが、庭木を持つ人

間の役目であると感じ、庭木の「形」の美しさだけでは無く、「姿」の美しさを感じる様な剪定がしたいとの思いが有り、受講意欲を持ちました。

講習3日目、「県公民館」の剪定実習では、実習開始前段、「安全管理」の講習を受講した後、当施設にある庭木の剪定実習に入った。剪定用脚立を置く位置・それぞれの樹木に合った剪定の姿の見方等の指導をこまめに受けつつ、実習を行った。

庭には、紅葉にカエデ・桜や黒松・桜・イヌマキ等、教材は豊富に有り、私は受講生の仲間3名と共に、黒松の「もみ上げを含んだ剪定」を行った。2時間程度で完了する予定でしたが、当日の実習時間内に終わることが出来ず、作業の難しさを痛感しました。

実習2日目、同施設の黒松の剪定を仲間3名と共に1時間、延べ開始から4時間を掛け、完了する事が出来、庭石を背景にした「姿」を仲間と喜びました。

講習6日目、「福米西公民館」の実習で、再び、黒松の剪定に仲間3名で取り掛かる機会を頂き、先の実習で学んだ事を全員が、遺憾なく発揮出来たと思ひ、加藤講師に作業完了を報告した。

ところが、庭石との調和が、取れて無いとの指導を受け、私たち3名は出入り口正面門からの



「姿」を観ての剪定を行って満足していたが、庭石を樹形の右下に観て、正面玄関から出入りする際の「姿」で剪定するのが正解とこのことで手直しを行った。私たち3名は、剪定後の樹形の難しさを痛感し、剪定の奥深さを感じました。

講習8日目、実習最終日は、「竹垣作成」で、受講生21名が2チームに分かれ、それぞれのチームで「四ツ目垣」と「金閣寺垣」を作成しました。杭の打ち方、竹の割り方、シュロ紐の結び方等、講習で学んだことの締めくくりとして完成させた、2種類の竹垣の出来映えに、全員が、満足の歓声を上げました。

今回の講習を通じて、学んだ知識を活用し、「造園技能士」資格取得へ、挑戦をする思いもあり、造園業を営んでいる知人のアシスタントを行うことで、更にレベルアップを図っています。

昨今、求職状況は若年層にも厳しい状況にありますが、趣味を発展させることでも自己啓発につながります。私は、人の世に、欠くことのない様、樹木の「緑」を絶やすことのない様、造園の仕事に活路を見いだしたいと考えます。

価値ある講習に参加出来、ありがとうございました。

お世話になりました講師の先生をはじめ、関係機関の皆様、講習を企画し、実習期間中、怪我もなく、常に安全への気配りを忘れず、お世話をいただきました鳥取県シルバー人材センター連合会の皆様に厚くお礼申し上げます。

# ●鳥取県の最低賃金●

最低賃金は、最低賃金法に基づいて決定されたもので、鳥取県内では、使用者はこれより低い賃金で労働者を使用することはできません。

## ◎鳥取県内の事業所で働くすべての労働者とその使用者に適用される

鳥取県最低賃金 (1時間 646円)	発行年月日 平成23年10月29日
-----------------------	----------------------

## ◎鳥取県内の特定の産業で働く労働者とその使用者に適用される

鳥取県電気機械器具・情報通信機械器具 ・電子部品・デバイス製造業最低賃金 (1時間 734円)	発行年月日 平成23年1月20日
---	---------------------

鳥取県各種商品小売業最低賃金 (1時間 694円)	発行年月日 平成23年2月11日
------------------------------	---------------------

※詳細については、鳥取労働局賃金室又は最寄りの労働基準監督署にお尋ね下さい。

鳥取労働局賃金室	電話(0857)29-1705
鳥取労働基準監督署	電話(0857)24-3211
米子労働基準監督署	電話(0859)34-2231
倉吉労働基準監督署	電話(0858)22-6274

## ※シルバー会員の配分金について

シルバー人材センターが受注する仕事の対価については、当該地域における類似の仕事の対価に比べて著しく低くならないように留意し、仕事の見積基準等は、地域の最低賃金や業界の一般的な基準を参考にすることが必要です。





(社)鳥取県シルバー人材センター連合会  
スタッフ一同

新年明けまして

おめでとう

ございます



表紙のことば

境港市の竹内団地にある『夢みなとタワー』では昔懐かしい商店街の風景が広がっている。駄菓子屋風の店が軒を並べ、そこには、キューピー人形また、昔懐かしい磁石式の電話機などが所狭しと並べられている。まさに、レトロの町並みである。

私も半世紀近く若返ったような感覚を覚えてしまいました。

今の時代にはないスローな空間がそこにはありました。

皆さんも一度訪問されてみてはいかがでしょうか。

あとがき

今回も、関係各位のご協力によりまして第二十六号の発行を迎えることができました。まずもって、厚くお礼申し上げます。

平成23年は、記録的な大雪に始まり、東日本大震災・それに伴う原発事故さらに、台風被害と非常に災害の重なった一年でした。

今年は、明るい話題が日本中に溢れるような一年になればと願っています。

会報鳥取 第26号  
平成24年1月発行

発行：社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会  
所在地：〒683-0812 鳥取県米子市角盤町1丁目76  
電話：0859-37-2531  
FAX：0859-37-2537

# (社)鳥取県シルバー人材センター連合会正会員

(平成24年1月1日現在)

名 称	〒	所 在 地	電 話	FAX	代表者
(社)鳥取市シルバー人材センター	680-0845	鳥取市富安2-104-1	0857-22-0050	0857-22-0051	木島敏行
(社)米子広域シルバー人材センター	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633	0859-32-5823	宇野治巳
(社)倉吉市シルバー人材センター	682-0816	倉吉市駄経寺町2-8-1	0858-22-0870	0858-23-6101	中林正樹
(社)境港市シルバー人材センター	684-0034	境港市昭和町11-22	0859-47-4540	0859-47-4541	西村岩市
(社)南部広域シルバー人材センター	683-0351	西伯郡南部町法勝寺170	0859-66-4011	0859-66-5330	安達幸男
(社)智頭町シルバー人材センター	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170	0858-75-2366	小林實夫
(社)岩美町シルバー人材センター	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511	0857-72-2512	谷口幹彦
(社)湯梨浜町シルバー人材センター	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-1	0858-35-4130	0858-35-4130	足立春人
(社)琴浦町シルバー人材センター	689-2352	東伯郡琴浦町浦安152-3	0858-52-1001	0858-52-1004	田中 明
(社)北栄町シルバー人材センター	689-2103	東伯郡北栄町田井46-2	0858-36-6220	0858-36-6227	日置勝彦
(社)大山町シルバー人材センター	689-3332	西伯郡大山町末長269-1	0859-53-4787	0859-53-1310	近藤昭夫
(一・社) 八頭町シルバー人材センター	680-0463	八頭郡八頭町宮谷254-1	0858-72-3351	0858-72-3351	衣笠春寿
江府町シルバー人材センター	689-4413	日野郡江府町州河崎62	0859-75-3211	0859-75-3211	宇田川 勉
日南町シルバー人材センター	689-5211	日野郡日南町生山357	0859-82-0223	0859-82-0223	矢吹隼之
三朝町シルバー人材センター	682-0152	東伯郡三朝町本泉359-1	0858-43-1883	0858-43-1883	馬野忠嗣